2026年度日本高等教育開発協会課題研究申請書

2026年6月11日

Ⅰ. 研究名称
日本の大学の学習支援における生成AIの活用実態の把握と課題の論点整理

Ⅱ. 研究代表者
多田泰紘（京都橘大学）

Ⅲ. 研究組織
清水栄子（愛媛大学）
君島菜菜（大正大学）

Ⅳ. 研究期間
2026年5月から2028年3月

Ⅴ. 研究の背景と目的
大規模言語モデル（LLM）による文献収集、要約、文章作成は、大学教育に対して大きな影響を与えている。特にChatGPTをはじめとする生成AIは、安価で特別な技術を必要とせず、レポートや発表資料、プログラミングコードを作成することができる。一方で使用者が、バイアスやハルシネーションといったモデル自体の構造的な課題への理解に乏しいと、捏造や倫理的な問題を生じる。生成AIの教育、学習への影響について、大学生協（全国大学生活協同組合連合会）やAXIES（大学ICT推進協議会）は大学生の生成AIの使用状況や生成AIに対する考え方や課題感の全国調査を行っている。しかしながら、各大学で学習支援を担当する教職員（学習支援担当者）を対象とした全国調査は行われておらず、学習支援での生成AIの活用実態や、学生のITリテラシー支援の状況は集約されていない。そこで本研究では、大学における学習支援担当者を対象として、学習支援における生成AIの活用実態と課題を明らかにするとともに、その成果をJAEDが実施する学習支援担当者研修会における研修内容や教材開発に活用するための基礎資料を得る。調査項目の概要として、以下2点を想定している。
１.学習支援（学生の学習にかかわる課題解決の支援を個別および組織的に提供する活動の総称）における生成AIの活用状況
２.学生の生成AI利用やITリテラシーの課題に対する学習支援担当者の考え方や、ITリテラシー支援の状況

Ⅵ. 研究の計画
本研究は2部（2年）構成で行う。

【1部（1年目）】
主に文献調査と一部学習支援担当者への調査を行う。文献調査では、国内の大学生協や大学ICT推進協議会（AXIES: Association for the Promotion of ICT in Higher Education）の調査や英国の高等教育・研究機関に対してデジタル基盤の整備や学習データの活用支援を行う非営利組織Jisc等による国外の学生調査を参考に、本調査の論点を整理する。論点として以下の3つを初期候補とする。
①学習支援実践の変容（対学生）

②対応困難・判断負担（対学習支援担当者）
③体制・リソースの状況（対組織）
　また、日本高等教育開発協会（JAED）メンバーや研究代表者・分担者が所属するコミュニティでのプレ調査（インタビューあるいは自由記述中心のアンケート）を行い、論点のブラッシュアップを行う。
【2 部（2 年目）】
　整理した論点をもとに、全国の学習支援担当者を対象としたアンケート調査を実施する。また、必要に応じてインタビューを実施する。

Ⅶ. 研究経費の計画（2026 年度）

区分	金額（円）	内容
物品費	15,000	生成AI および学習支援に関する文献収集および　調査実施に必要な物品の購入に使用する。 ・生成 AI・ICT 関連書籍（3 冊程度）約 9,000 円 ・学習支援関連書籍（2 冊程度）約 4,000 円 ・USB メモリ、録音周辺機器等　約 2,000 円
旅費	45,000	インタビュー調査の国内出張 ・京都－関西地区の大学訪問（日帰り 3 回）約 5,000 円×3 回＝15,000 円 ・愛媛－四国地区の大学訪問（（日帰り 3 回）約 5,000 円×3 回＝15,000 円 ・東京－関東地区の大学訪問（日帰り 3 回）約 5,000 円×3 回＝15,000 円
謝金	30,000	インタビュー協力者謝礼 3,000 円×10 名
その他	10,000	通信費、分析ソフト利用料、消耗品費等

Ⅷ. 成果の公表方法
　本研究の進捗と成果は研究期間中の日本高等教育開発協会年次大会で報告する。また、アンケートおよびインタビューの調査結果は分析を行い、『高等教育開発』への投稿論文としてまとめる。
　また、分析データをもとに以下 2 点展開し、日本の学習支援に寄与する。
①JAED の学習支援担当者研修会の研修内容に組み込む（2 年目）
　JAED が実施する学習支援担当者研修会において、学習支援における生成 AI への対応と活用に関するセッションを設ける。セッションの中で、学生の生成 AI の使用方法や IT リテラシーに対応した学習支援に関するレクチャーやワークを行う。また、インタビュー調査等で得られた学習支援の対応事例（グッドプラクティス）や生成 AI を活用した学習環境の構築事例を参加者と共有する。
②報告書を別途まとめ、電子コンテンツでの公開を目指す
　本課題研究の目的は、生成 AI の学習支援への影響について、論点を整理することにある。得られた知見を研修会や電子コンテンツとして活用することで、各大学の学習支援担当者による日々の学習支援の充実が期待される。